

特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ

県総合教育センター特別支援教育部

1 はじめに

県内の小学校及び中学校においては、特別支援学級在籍者数は年々増加の一途にある。加えて、在籍する児童生徒の実態も多様化していることもあり、特別支援学級担任の専門性や実践力の向上が大きな課題となっている。

そこで、平成27年度に県内の特別支援学級担任1,734人を対象に、課題等に関する質問紙調査を実施した。そして、調査結果を基に、5つのコンテンツから構成される「特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ」を作成した。



2 コンテンツの内容紹介

(1)コンテンツⅠ「特別支援学級担任の1年」

1年間を見通した学級経営が進められるコンテンツである。特別支援教育の専門用語をわかりやすく解説しながら、学級事務や交流及び共同学習の進め方、行事に向けた取り組み例、中学校の進路指導等を取めている。

(2)コンテンツⅡ「児童生徒理解と教育課程編」

指導・支援に当たっての児童生徒の障害理解と教育課程の基本的な考え方を示したコンテンツである。

「各教科の到達目標及び内容選択表」は、平成29年3月に告示された小学校及び中学校学習指導要領の第1章第4の2の(1)に示された「特別支援学級における特別的教育課程」の編成(イ)を具体化したものであり、時間割や年間計画を考える上で基盤となるものである。

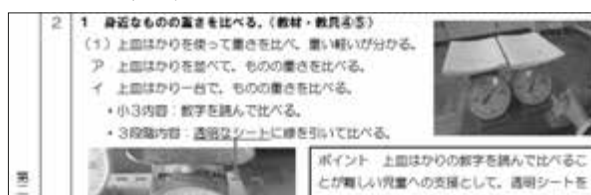
(3)コンテンツⅢ「授業実践編」

特別支援学級の授業実践モデルを例示し

たコンテンツである。日常の授業づくりの参考となるように、視覚的情報を多く取り入れ、活用しやすくした。

(4)コンテンツⅣ「教材・教具編」

国語・算数、数学における教材・教具の使い方や、インターネット等で収集可能なサイトを紹介したコンテンツである。



(5)コンテンツⅤ「教育動向編」

特別支援学級担任として身に付けておきたい基本的知識と特別支援教育に関わる近年の教育動向をまとめたコンテンツである。

3 おわりに

質問紙調査から、現在、特別支援学級担任が抱える指導上の課題を明らかにし、本パッケージのコンテンツ内容を構成することができた。

授業モデルは、調査研究協力員が授業展開した内容を基に検討及び検証を重ねたことで、「主体的・対話的で深い学び」を目指した実践的な授業内容になったと考える。

以上のことから、本パッケージは経験年数の浅い担任の専門性向上の一助になると考える。併せて、経験豊富な担任においても、学級経営の振り返りや裏付けとなり、経験年数の長短にかかわらず、幅広く活用できるパッケージとなった。

本パッケージは、平成30年4月から、県総合教育センターのWebサイト上に発信し、データ化したパッケージを各市町村教育委員会に配付している。また県内の小・中学校には、パッケージ内容をまとめたリーフレットを配付している。

本パッケージを活用することによって、教職員一人一人の特別支援教育の専門性が高まることを期待し、様々な機会を通して周知を図りたい。